

こんにちは
健保組合です！

コイデ陸運(株)
[旧小出運輸有]

の
卷

暦の上ではもう九月、初秋という言葉を使う時期というのに記録的な猛暑が続き、各地の気象観測の記録を次々

と塗り替えていった今年の夏を彷彿とさせるよくな日差しがまだ残るなか、九月十二日に事業所訪問の第一五回目としてお邪魔したのは、市原市にあるコイデ陸運株式会社でした。

前回から便局管理事業等指導委員会の指導宣伝部会より委員の方に取材に同席していただくこととなり、今回は君津市の京葉港運株式会社の伊田課長に業務ご多忙のこところ同行していただきこととなりました。同氏には、私たち事務局では分からぬ運送業界の機微を助言いただき、取材がスムーズに進行したことは言うまでもありません。

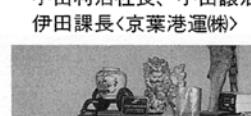
乗務員の検診嫌いの傾向は近年変わつた

乗務員の検診嫌いの傾向は近年変わりつつある

こたく、私輸

ととし、私たちは国道一六号線を南下しました。いわゆる産業道路とよばれているこの道路は、京葉工業地帯に欠かすことのできないもので、慢歩化する渋滞にその対策を望む声も多く、高速道路の整備等が推し進められていました。それはさておき、私たちがこの道を利用する際、つい最近までは「車の量が減っている」と感じていたのですが、今日を見る限りでは「経済も徐々に回復しているな」と実感できるような交通量でした。

そういうしていいるうちに、私たちは今日の目的地に到着しました。市原市青柳にコイデ陸運はありましたが、この辺りは多くの企業が集中しています。非常に交通の便のよい環境にあると感じたのですが、後の取材でお聞きしたところによると、都市計画道路の一角に該当してしまう企業は移転を余儀なくされることのこと。同社に至つても長年住み慣れた地を離れて、近い将来再出発をされるとお聞きしました（「よい代替地が見つかた」とあわせてお聞きできて、私たちは安心しました）。

●右から
小出利治社長、小出讓治副社長
伊田課長(京葉港運株)

一階事務所のドアを開け、「ここにちは健保組合です!」とございさつを申し上げると、当健保の理事をお願いしている小出副社長が執務をされておりました。が、「ようこそ」と出迎えてくださいました。



のですが……。

にせず相当無理をされたとお聞きしました。その代償が来る前に、これからはしっかりと健康管理をしていただきたいと、私たちをお願いしました。

創立三十周年が同時期に重なる社名変更、新社屋のオープン、

それから、私たちは、同社の歴史についてお聞きしました（この辺りで社名変更のいきさつがお聞きできそうで

小出社長（副社長のお父さまです）が御同席くださいました。事務局から恒例の健康保険組合の概況をご報告し対談が始まりました。最初の話題は健康管理についてでした。小出社長は「從来、乗務員は検査で「嫌い」とおっしゃられ、「健康管理に對して無関心」と続けられましたが、「その傾向は近年変わりつつある」と小出社長が言葉を添えられました。「人材を大切にする観点からもその認識の高

もうすぐです。皆さんの健康は誰も守ってくれません。皆さん自身で守つ

てくださいね！

昭和四十年四月の設立、当時はのりの配達等さまざまな業務をうけ持つておられたそうです。その後、市原の工業地帯に企業が進出したことによって業務も大きく変わってきたようです。そしてご苦労された長い年月を経て、平成七年には創立三十周年を迎られるようになりました（おめでとうございます）。その記念すべき区切りと自ら望んだわけではありませんが、新社屋のオープン、それに社名変更がほぼ同時に重なったそうです。社名変更については、同社には兄弟会社があり、小出社長は「三人の息子にそれぞれひとつのお会社をと、がんばってきた」とおっしゃつておられましたが、副社長以下「ご子息そろつての意見は「合併」で意志統一されたそうです。

とつの企業を力を合わせて……』と考
えられたそうで、私たちは『三本の矢』
を思い出し、今後ますますまい進し続
ける企業となれるることを祈念いたし
ました。

「世代交代を円滑にして変革を」が
社長の後継者(つぐひ)に対する哲学
小出社長は早くから引き継ぎを考え
ておられ、自らの身を引くことを考え

暑の連続で、きっとからだは疲れています。休養、栄養、運動で心とからだをリフレッシュするには最適の季節は今年の夏は冒頭申し上げたとおり猛暑もなかなかだと思いませんか。

揚のために経営者は教育する必要がある」と、ニューリーダー的な発言に私